

《講演者等プロフィール》

Dr. Bernhard Url

(バーンハード・ウール)

欧州食品安全機関（E F S A）長官

ウール長官は、長官代理を7ヶ月務め、2014年6月よりEFSAの長官である。2012年6月に、リスク評価及び科学支援局長としてEFSAに着任した。食品安全機関での高いレベルの管理経験を活かし統率している。

EFSAに勤務する以前は、EFSAのアドバイザリーフォーラムでオーストリアを代表するオーストリア保健食品安全局（AGES）の局長代行を務め、2008年から2012年3月までは、EFSAの運営委員会のメンバーを務めた。AGESでの10年間は、多岐に渡る分野において、リスク評価とリスク管理サービスを適宜提供する等、技術的かつ科学的な業務に従事。また、緊急時における食品安全関連事象の発生の際の効果的なリスクコミュニケーションを確保する業務も担った。

ウィーン獣医学部で乳衛生及び乳技術研究所の助教授として5年間勤務し、1993年から2002年は、食品品質管理研究所の管理運営を行った。

ウール長官は、1987年にウィーン獣医学部を卒業し、1990年に獣医学博士号を取得。また、リステリアと乳衛生を専門とした獣医学の分野での論文執筆も行っている。

佐藤 洋

内閣府食品安全委員会 委員長

佐藤委員長は、東北大学名誉教授であり、2015年7月より食品安全委員会委員長を務めている。2012年7月から2015年6月まで委員長代理を務めたのち、現職に就任。委員長代理に任命される以前は、2003年9月から2012年6月まで、食品安全委員会の化学物質および汚染物質専門調査会の座長を務めた。佐藤委員長は、水銀およびその化合物、特に長期間にわたるメチル水銀の健康影響に関する研究に従事。

1974年に東北大学医学部を卒業し、1979年には、同大学で医学博士号を取得。1989年から2011年には東北大学医学部教授を務め、2011年4月から2012年6月までは、国立環境研究所副所長を務めた。

また、佐藤委員長は、環境衛生及び公衆衛生分野に重要な役割を担っている日本学術会議、日本中央環境審議会等のメンバーとして、積極的に関与していた。

Dr. Chin Cheow Keat

(チン・チョウ・キート)

ASEANリスク評価センター (ARAC) 事務局

(マレーシア保健省 食品安全品質課 品質及び基準部門 部門長)

チン博士は、マレーシア国立大学で食品科学の PhD を取得し、現在はマレーシア保健省食品安全品質課内の部門長を務める。1990 年にマレーシア政府の行政に加わって以降、27 年間に渡りマレーシア保健省の食品安全分野に取り組んでいる。

長年にわたり、食品分析から様々な食品安全プログラムの実施、監視、計画まで、様々な役職を担ってきている。また、食品安全に関する ASEAN 及び国際フォーラム（コーデックス等）にも参加している。チン博士は、食品安全のための ASEAN リスク評価センター（ARAC）の設立に重要な役割を果たし、現在は ARAC の事務局長を務める。さらに、基準及びコーデックスの担当者として、食品安全に関するコーデックス及び国内外における計画及び調整業務を行うとともに、食品法の更新、改訂、公布を担っている。

Professor Dr. Reiner Wittkowski

(ライナー・ウィトコウスキー)

ドイツ連邦リスク評価研究所 (BfR) 副所長

ウィトコウスキー副所長は、2003 年よりドイツ連邦リスク評価研究所 (BfR) 副所長を務める。1996 年より、ベルリン工科大学の食品化学部の準教授でもある。

1998 年から 2003 年は、BfR の評価部門長を務め、1990 年から 1998 年は、ドイツ連邦保健局栄養 Max-von-Pettenkofer 研究所のワイン他飲料部門長を務めた。

1986 年、カリフォルニア大学（ディビス校）の博士研究員。ベルリン工科大学（ドイツ）で、食品科学における博士号（1984 年）及び教授資格（1995）を取得。

その他、連邦食料農業省ワイン研究委員会、ドイツ大手消費者団体（Stiftung Warentest）理事会員、ドイツ標準化機構（DIN）の国立農業研究所（NAL）諮問委員会メンバー、欧州食品安全機関（EFSA）アドバイザー・フォーラムドイツ副代表を務める。また、2003 年から 2009 年は、パリの国際ブドウ・ワイン機構（OIV）議長兼副議長を務めた。現在、OIV の名誉会長でもある。

Dr. Guilhem de Seze

(ギレム・デ・セゼ)

欧州食品安全機関（EFSA）規制製品の科学評価局 局長

デ・セゼ局長は、2016年9月1日よりEFSAに加わり、規制製品の科学評価局局長を務めている。前職のヘルシンキにある欧州化学物質庁（ECHA）（2008年2月着任）では、様々なポジションに就き、ECHAの業務プロセスとITシステムの開発に貢献。2011年1月以降は、まず物質同定とデータ共有担当ユニットの、続いて担当評価ユニットのユニット長を務め、化学物質及びその有害な性質に関する科学的及び技術的情報の評価を担当。ECHA以前は、化学業界の有害化学物質管理分野で10年に渡り勤務。

デ・セゼ局長は、米国ルイジアナ州立大学で汚染物質への環境暴露を専門とする化学工学のPhDを取得。

Dr. Roger Genet

(ロジェ・ジュネ)

フランス食品環境労働衛生安全庁（ANSES） 長官

ジュネ長官は、2016年5月よりフランス食品環境労働衛生安全庁（ANSES）の長官を務めている。2012年から2016年は、フランス研究省の研究及びイノベーション局の局長だった。ジュネ長官は、健康・農業・環境分野において、公的政策立案を支援するための研究と専門的政策へ従事する専門家である。CEA（フランス原子力代替エネルギー庁）の研究者として25年の経験を持ち、2005年から2007年は、上席教育研究省の閣僚顧問を務めた。

また、フランス環境研究所（Irstea）のCEOとして2009年に任命され、2010年2月に創設された環境研究のための国家同盟（AllEnvi）の初の会長としても選出された。生化学のエンジニアでもあるジュネ長官は、パリ・シュッド・オルセー大学（フランス）で酵素学等の博士号を取得した。

山添 康
内閣府食品安全委員会 委員（委員長代理）

山添委員は、現在、日本政府内閣府の食品安全委員会委員代理を務める。

山添委員は、大阪大学で、生薬化学の学士（1971）及び修士（1973）を取得、また、同大学で、薬学のPhD（1981）を取得した。

1973年、藤沢薬品工業（株）医薬品代謝部に入社。慶應義塾大学医学部薬学部（1977）に研究助手として勤務。FDAの毒物学研究センターの客員研究員として渡米。のち、慶應義塾大学へ戻り、1986年、助教授、1990年に東北大学薬学部教授に就任。

山添委員は、化学物質や生物学的な側面から化学物質の薬物代謝・発癌性に関する研究成果として国際的に評価されている。主な研究関心は、代謝活性化、保護、薬物相互作用、発癌性および毒性を含む「化学的媒介生物活性における代謝的役割」にある。化学、酵素、薬理学的研究に基づいた薬物代謝に関するピアレビューされた310以上の論文を発表。研究は、分子発癌性や毒物学的事象、特に環境発癌物質にも及ぶ。また、101レビューペーパーと本の章の著者でもある。さらに、毎年国際的に招かれた講義や数多くの国内講演を行う。

Dr. Paul Chiew King Tiong

（ポール・チュウ・キン・チョン）

ASEANリスク評価センター（ARAC）科学委員会 委員長

チュウ博士は、現在、研究グループ長であると同時に、シンガポール農食品・畜産庁（AVA）の食品安全に関するプログラム長でもある。研究グループ長として、獣医公衆衛生センター（VPHC）と動植物保健センター（APHC）で構成されるAVAの複数の専門分野の研究所を監督している。（VPHC内には、シンガポール国内の食品安全試験センター、及びOIE地域の食品安全協力センターが設置され、一方APHC内には、動物疾病センターと植物衛生診断センターが設置されている）

チュウ博士は、食品安全衛生、リスク評価、精査、検査分析、獣医公衆衛生に関する科学的アプローチを実施する国家食品安全機関として、AVAの規制枠組みに密接に携わっている。また、コーデックス食品規格委員会やアジア地域調整部会（CCAsia）など、数多くの国内及び地域の食品安全基準委員会の活動にも関与している。チュウ博士は、現在、リスク評価に関するASEANリスク評価センター（ARAC）の科学委員会の他、ASEAN食品検査委員会、ASEAN GMO 検査ネットワーク、コーデックスに関するASEANタスクフォースの議長を務めている。

Dr. Patrick Deboyser

(パトリック・デボワジェ)

在タイ欧州連合代表部保健及び食品安全担当公使参事官

デボワジェ参事官は、保健及び食品安全担当のタイ欧州連合代表部公使参事官である。前職は、欧州委員会の食品法・バイオテクノロジー部門長、及び欧州委員会の医薬品・化粧品部門の部門長を担った。

現在の職務は、所管分野において、EUと貿易相手国との効果的な連絡調整役になること等である。

また、デボワジェ参事官は、パルマ大学の教授であり、2003年よりEU食品安全政策及びEU医薬品政策について教鞭を執っている。

川島 俊郎

内閣府食品安全委員会事務局 局長

川島局長は、2016年内閣府食品安全委員会事務局長（FSCJ）に着任した。前職は、農林水産省消費・安全局審議官（2015年4月着任）であった。

農林水産省での32年間において、川島局長は、畜産局畜産復興課（1998年～2001年）、畜産局食肉鶏卵課（2001年～2003年）、消費・安全局衛生管理課（2003年～2006年）の課長補佐を務め、その後、2006年より、消費・安全局動物衛生課国際衛生対策室長を務めたのち、2009年には消費・安全局動物衛生課長に着任。2006年から2016年にかけては、日本首席獣医官を務めた。

また、1995年から1998年は、在デンマーク日本大使館の一等書記官として3年間勤務した。川島局長は、2009年に、国際獣疫事務局（OIE）アジア・極東・オセアニア地域委員会議長を務め、2012年から2015年は、当委員会のメンバーを務めた。

川島局長は、1981年に北海道大学を卒業し、1983年に同大学で獣医学修士号を取得。